

## メープルレター(33)

### 錦織りなす晩秋の頃

早いものですね、こちらはもう晩秋です。朝晩は暖房を入れることもあります。

そんな週末の日のこと、茜色に染まり始めた早朝に、一艘の豪華客船が港に入ってきました。棧橋に入りきらないほどの大きな船です。船のマークは、バイキングの帆船。船の名前もバイキング。フィンランドの国旗がはためいています。その向こう隣の棧橋にはアメリカの豪華客船がすでに入港済みです。二艘の豪華客船が飾り立てる、ダイナミックな港の風景です。美しい古都の秋を求めての旅路でしょうか。

この時期、ケベックの山々は、黄色、オレンジ色、赤に染まり、その中に点々と常緑樹の緑が混ざり、見事に錦を織りなしています。何百個と点在する湖に、盛栄の秋の色が映り、湖面は光を受けてキラキラと錦の色に輝いています。自然は、夢よりももっと深い夢なのかもしれません。

バイキングと大いに関わりのあるケルト族のDNAを持つドリトル先生には、海運、造船を保ってきたバイキングの祖先を持つフィンランドのこの船は、他人事ではないようです。

「バイキングは、長い、薄汚い髪の毛の、泣く子も黙る、強いもの知らずの海の男達の集まりだったんだ。船は高波に耐えられるよう曲線をなし、帆もマツも高くできているんだよ。」

なるほど、このフィンランドの豪華客船のマークはまさにそれです。スカンジナビア半島を拠点とし、この豪快な船を漕いで征服略奪というより、実際には交易のため西ヨーロッパ沿岸地区にやってきたようです。バイキングに触れていないヨーロッパの国は、どうやらなさそうです。このバイキングの祖先を持つ国の一つを、「僕ちゃん買おうかな」とトランプ大統領は言ったのでありますが。。。

そんなある秋の日に、来年はおそらく新しい赴任先で、もうケベックの秋は見られないだろうという、総領事館の外交官の奥様3人をお連れして、アメリカ国境に近いノースハトレーの陶芸家の友人のお宅にお邪魔しました。ノースハトレーは、モンリオールから高速で1時間半ほどの美しい風景の別荘地です。このあたりは湖も多く、暮らしの豊かな人たちが住んでいたり別荘を持っていたりします。ここまで錦織りなす秋の風景の山並みの中を車で通り抜けていきます。これが見たかったのです。見とれ、風景を満喫しながら、おしゃべりにも花が咲き、あっという間に陶芸家のお宅に着いてしまいました。遠くに湖を見下ろしながら、友人の陶芸家の、魯山人も真っ青の手の込んだ手料理に舌鼓を打っている間に夕暮れとなってしまいました。覚めないでほしい、秋の夢のような時が過ぎていったのでした。

我が家の菜園ですか？ 晩秋で店じまいとなり、切ったり、支柱を取り除いたりして、今かたずけているところです。結局、素人はどこまでいっても素人だと反省の至りです。先住民のインゲンご愛用だったと言われて育てたインゲンは毎日数個取れただけで終わってしまい、大根は容器の深さが足りなかったためミニ大根となり、もっぱら葉を食べ、サボワキャベツは丸まらないまま、葉ボタンのようになってしまいました。大正解だったのはトマトです。毎日ふんだんに食べられました。今年トマトは不作な年だそうですから、

「和子、貴方はラッキー」

と植物図鑑のような友人にいわれました。美味しかったのはブロッコリーです。いつもはあの緑のかたまりを見るだけで避けていたドリトル先生も、

「これは、甘くて、食感があって美味しい」

と、喜んで食べていました。どうやら、テラスの園芸はかなり、作る物を選んだ方が良さそうだと、来年に向けて反省しております。

そうこうしているうちに寒い冬がやってきそうです。冬ごもりに準備にかかりつつあります。